

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★



Data

監督：パク・チャヌク  
出演：ソン・ガンホ/イ・ビョンホ  
ン/イ・ヨンエ/キム・テウ  
/シン・ハギョン

## 👁️👁️ みどころ

韓国映画。南北朝鮮問題、38度線をあらためて認識。  
果たして、「シュリ」を超えたか？

—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*

### <38度線—軍事境界線の意味>

何回聞いても覚えられない「JSA」とは、「Joint Security Area」の略で、共同警備区域。つまり、南北朝鮮を、1本の線（38度線）で、別の国家として隔てている板門店地区で、互いに国境警備にあたっている共同警備区域のこと。

韓国映画の「シュリ」を上回る人気ということで、勇んで観に行っただ。たしかに、「ノー天気」な日本人に対して、今も毎日緊張が続いている南北「朝鮮問題」を、現実のものと感じさせる効用はある。また、中立国スイスの将校として、「中立国監督委員会」に派遣されて、今回起こった銃撃事件の捜査にあたる、韓国女優「李英愛（イ・ヨンエ）」の前評判通りの美しさには、ストーリーを無視して、見とれてしまう。そして、突然起こったこの銃撃事件も、確かにその謎を明かされてみると、「なるほど、警備員もやはり人間なんだ。」そして、「南も北も同じ民族なんだ。」と思えるようなストーリーとなっている。

### <「シュリ」との比較>

しかし、私には「シュリ」の方が面白かった。それは多分、北朝鮮の工作人員の非情さやリアルさと、ダイナミックに犯人を追いつけていくストーリー展開の面白さにおいて、「シュリ」の方が上回っているからだと思う。

「JSA」は38度線を舞台に、突然起こった銃撃事件という、限定されたスケールでの話だから、どうしても映画のポイント、興味は、そのタネ明かしをどのように進めていくか、という点にしばられてくる。

この作品は、回想シーンを多用しながら、これを巧みに描いているが、やはり「意外性」という点では、「シュリ」の方が上だろう。ただ、「38度線」、「板門店」、「帰らざる橋」、「軍事境界線」などの、今も現実に生きているキーワードは、韓国の若者だけではなく、日本の若者も知っておかなければならない言葉である。そして、これらの言葉のもつ意味や、その実態を実感するには、この映画は格好の作品である。

2001（平成13）年9月記